

令和3年4月1日、全振興局で初となる「スマート農業」の専門部署が、「空知スマート農業推進室」として設置されました。

推進室の成り立ちとこれまでの活動内容について、簡単にご紹介させていただきます。

「空知スマート農業推進室」発足の経緯

管内の状況

- 管内全域で農家戸数の減少や高齢化等による「労働力不足」が進行しており、その対応策として「スマート農業」が話題に頻出
- スマート農業の活用に係る実証試験を積極的に行う地域がある一方、多くの地域ではそうした取組が進められていない

振興局の思い

- 一部の地域で実証が進む先進的な取組を、他地域に波及できないか
- 関心があっても普及が進んでいない地域の障壁となっているものはなにか

広域的な行政組織である振興局として、何かできることはないだろうか？



スマート農業に係る地域の「ホンネ」を把握し、空知管内に適したスマート農業のあり方の検証と普及推進を行うため、「空知スマート農業推進室」を設置

「空知スマート農業推進室」について

農務課長を室長とし、農務課・調整課・整備課・地域政策課の職員(6名)により構成。

空知スマート農業推進室 令和3年度における主な活動について

- ① 管内22市町とのスマート農業に係る意見交換の実施
まずは、各地域の「ホンネ」を知り、共通の課題や必要とされる取組を確認
- ② 「空知スマート農業推進協議会」の設置
管内全体での情報共有と共通の課題を解決するための組織を設置
- ③ 「空知スマートアグリシンポジウム2021」の開催
管内で関心の高い技術について、全国的な動向及び管内優良事例の紹介、道内外の農業者等によるパネルディスカッションを実施

その他の活動については、空知スマート農業推進室のホームページをご参照ください。
アドレス：<http://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/num/sorachismart.html>

QRコード

空知スマート農業推進室HP



① 管内22市町とのスマート農業に係る意見交換の実施

スマート農業に関する取組を積極的に行っている地域はもちろん、これから取組を始めようとする地域にも足を運び、意見交換を実施することで、スマート農業が空知という地域でどう受け止められているか、知ることから始めました。

意見交換の実施後、その内容を「空知管内におけるスマート農業の普及推進状況」としてレポートに集約し、管内市町等と共有しました。

空知管内におけるスマート農業の普及推進状況について

空知管内における普及推進活動の展開状況と導入実績

スマート農業の普及を目的として・・・

協議会等の普及組織

12 / 22 市町
で設置

市町独自事業

12 / 22 市町
で実施

17市町が普及推進活動を展開

スマート農業機械等の導入台数
(市町による導入把握数)

R3 2,296台

R2 994台

市町独自事業や「経営継続補助金」等を活用し、GNSSガイダンス・自動操舵システム等の導入が加速化

空知管内におけるスマート農業の広がり

農業者がスマート農業技術の有用性について、営農体系や経営規模に応じて判断できるきっかけが多いほど、スマート農業への関心が高まり普及が加速化する。

実証試験の実施

実証試験を実施しスマート農業がもたらす効果を定量化することで、費用対効果の予測ができる。

農業者間の意見交換

作業の疲労感の軽減等、定性的な導入効果についても、事前に把握し、導入の参考にできる。

活用方法の検証・共有

各地域の通信環境や、農地の整備状況に合わせた、スマート農業技術を検証・共有することで、期待通りの効果を発揮できる。

各地域における協議会等がこれらの活動を担い、スマート農業の普及に貢献

空知管内における普及推進上の課題と今後の推進方針

機器導入状況の全容が不明

市町を超えた情報共有体制が未構築

定量的な実証試験データの不足

普及状況の市町間差が拡大

スマート農業の更なる普及推進には・・・

空知管内の研究・普及組織やJA等と連携して、空知地域の営農体系に即したスマート農業の効果的な活用方法を検証し、管内全体で情報提供及び共有を深化させる体制づくりが必要。

QRコード



レポートの本文については、推進室のホームページ上で公開中です。
アドレス：<http://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/num/sorachismart.html>

② 「空知スマート農業推進協議会」の設置

意見交換で見えてきたのは、スマート農業の活用可否は営農体系や農地の状況に応じて様々であり、地域の特色や経営規模に応じた技術導入のあり方を考える必要があるということ。

空知地域の営農体系に即したスマート農業の効果的な活用方法を検証し、管内全体での情報共有を行う場として「空知スマート農業推進協議会」を設置しました。

空知スマート農業推進協議会のこれまでとこれから

令和3年度に実施した、空知スマート農業推進室と管内22市町とのヒアリングの結果、空知管内におけるスマート農業の普及推進にあたっての「4つの課題」を認識

普及推進にあたっての「4つの課題」

機器導入状況の全容が不明

市町を超えた情報共有体制が未構築

定量的な実証試験データの不足

普及状況の市町間差が拡大

「4つの課題」を解決し、更なるスマート農業の普及推進を図ることを目的として、管内関係機関で構成する「空知スマート農業推進協議会」を設置

空知スマート農業推進協議会の設置

スマート農業の更なる普及推進には…

空知管内の研究・普及組織やJA等と連携して、空知地域の営農体系に即したスマート農業の効果的な活用方法を検証し、管内全体で情報提供及び共有を深化させる体制づくりが必要。



令和3年12月1日 協議会を設置

空知スマート農業推進協議会では、「4つの課題」に対応した取組を「空知スマート農業アクションプラン」(R4～R6)として策定し、管内におけるスマート農業のあり方の検討とその普及推進の加速化を図る。

空知スマート農業アクションプラン

- ① 原案を事務局（推進室）で作成
- ② 構成団体から意見を聴取し反映
- ③ R4年度第1回協議会で策定予定



③ 「空知スマートアグリシンポジウム2021」の開催

- ・意見交換時に関心の高かった、水田の「水管理システム」をテーマに開催
- ・最先端の技術紹介ではなく、普及している技術に関心を持ってもらえるプログラム
- ・メーカーや生産者等、直接機械を製造・使用する方々の生の声を届ける

このようなコンセプトの元、「空知スマートアグリシンポジウム2021」として、共催団体の協力を得ながら研修会を開催しました。

空知スマートアグリシンポジウム2021の開催状況について



全国団体・関連企業との共催により開催



QRコード

シンポジウム2021 動画URL



41:00より動画スタート

研修会については、Youtubeアーカイブ上で視聴可能です。ぜひご覧ください。
https://youtu.be/K8_4DNIRUdc (JAISAアーカイブ上・41:00より動画開始)

むすびに

～これから本格的にスマート農業の導入に向けた作業を進めようとする地域へのアドバイス～

まだまだ推進室は勉強中の身ですが、これから本格的にスマート農業を導入する地域へのアドバイスについて、1年間の活動で学んだことを基にお伝えします。

① 地域で核となる組織が必要

スマート農業は「地域の労働力が不足していく中で、どうやって地域産業の生産性を維持していくか」という、地域課題への解決策として注目されることが多いですが、その導入はスマート農業機械等を取り扱うメーカーと生産者の間で直接進められ、行政やJA等が実態を把握しにくい傾向があります。

地域全体での導入を推進するためには、スマート農業に係る意見交換・情報共有等を行う協議会等の場を活用して、地域内の機器導入の状況・傾向を把握したり、スマート農業技術を活用する生産者の生の声を他の生産者に届ける機会を設けるようにすると、地域における普及推進で何を行うべきかがわかりやすくなるでしょう。

② どこまでのコストをかけるべきが検討することが必要

スマート農業に限った話ではありませんが、高度な技術を活用しようとするほど、必要となる機器導入や環境整備・維持管理に係るコストが増加します。

地域ごとの営農体系や農地の状況、経営規模や労働力確保に係る費用とのバランスを見ながら、どのレベルのスマート農業技術を域内で一般的に普及させるかを検討していく必要があるでしょう。

③ 農業以外の「まちづくり」とどうつなげるか

スマート農業技術の多くは通信を伴う技術のため、5GやRTK、携帯電波の基地局・アンテナ等の通信環境が整っているほど、導入できる技術の選択肢が増えます。

通信環境を地域医療や防災・除雪等、農業以外の「まちづくり」に活用できるアイデアやプランを関係者と描ければ、スマート農業を円滑に推進するインフラ整備も行いやすくなるでしょう。